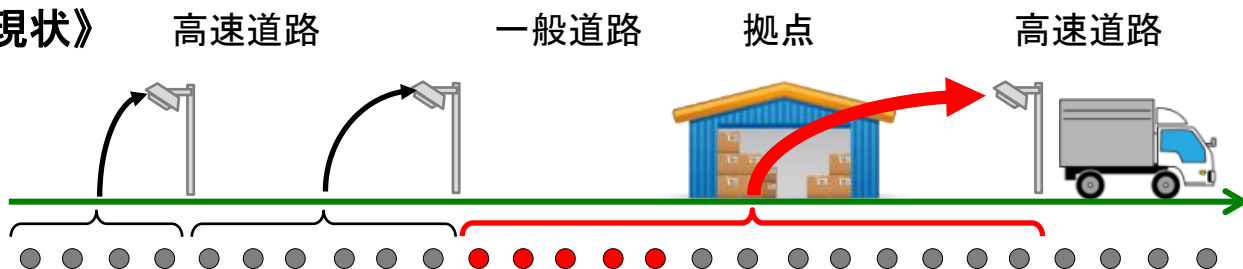


●民間の拠点等に設置できる「ETC2.0簡易型路側機」を開発しましたので、ご利用ください

主な特徴

- 到着の確認や運行日報の作成などを速やかに行うために、拠点に到着した時点でプローブ情報を収集
- 路側機間の距離が長い場合(概ね60km以上)のデータ欠落を緩和します
- 拠点での走行は徐行・一時停止を前提とし、機能を限定して安価に調達できます
- 民間が調達・設置できるよう、仕様書「民間向け簡易型路側機(無線部)仕様書」を2019年5月に発行
- 2019年夏に、簡易型路側機を接続して運用できる環境を整備
- ETC2.0簡易型路側機で収集した特定プローブデータは、実道上の路側機で収集したデータと同様に、特定プローブデータ配信事業者(HIDO)からサービス参加者(ASP、物流事業者等)へ提供されます。

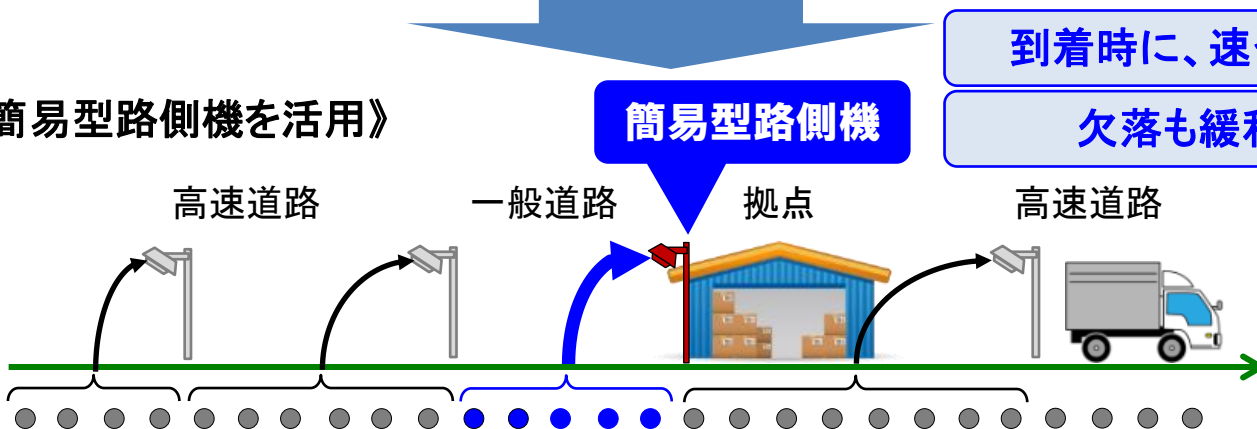
《現状》



ラストワンマイル情報も、実道上の路側機で収集⇒遅れる

●の距離が長い場合、経路情報に欠落が生じることがある。

《簡易型路側機を活用》



到着時に、速やかに収集

欠落も緩和できる

- 個々の位置情報
- 拠点までの位置情報
- 簡易型路側機で収集する位置情報

●簡易型路側機の構成イメージ

